

紐・刺繍 Braided Cords and Embroidered Patterns

指定番号 199 (令和4年度指定)

えどくみひも 江戸組紐 EDO-KUMIHIMO



組紐は、奈良時代に仏教と供に渡来し、我が国独特の技術の発展を経て、日本独自の組紐、優美な紐がつけられるようになりました。福田さんは、現代の名工として認定を受けた実父の隆さんの下で修業を重ね、伝統工芸技術を極めることに留まらず、現代に合った組紐の形を生み出すことに積極的に挑戦しています。

連絡先：03 (3664) 2031

紐・刺繍 Braided Cords and Embroidered Patterns

指定番号 179 (平成25年度指定)

えどくみひも 江戸組紐 EDO-KUMIHIMO



組紐は、奈良時代に中国より仏教文化と供に渡来し、我が国独特の技術の発展により、日本組紐として優美な紐がつけられるようになりました。

中村さんは、松戸市内で約120年の歴史を持つ組紐づくりの四代目として、「手組み・正絹・日本製」にこだわり技術を受け継いでいます。

連絡先：047 (362) 2667

紐・刺繍 Braided Cords and Embroidered Patterns

指定番号 124 (平成8年度指定)

しもうさくみひも 下総組紐 SHIMŌSA-KUMIHIMO



組紐は、奈良時代に中国より仏教文化と供に渡来し、我が国独特の技術の発展により、日本組紐として優美な紐がつけられるようになりました。

久田さんは、昭和59年度に県指定を受けた実父の久松さんの下で修業を重ね、二代目としてその技術を受け継いでいます。各種工芸品展などでの入賞経験もあります。

連絡先：043 (462) 0475

木工品 Woodcraft

指定番号 170 (平成22年度指定)

おけ 桶 OKE



小峯さんは、父である吉一さんから受け継いだ、たがに洋銀を用いるなどの技術技法に磨きをかけてきました。

風呂桶を中心に、伝統技法を生かした様々な桶の製作に取り組んでおり、飯台や飯櫃には、木曾・上松産の榎しか使わないこだわりを持っています。

連絡先：04 (7196) 0132

木工品 Woodcraft

指定番号 109 (平成5年度指定)

かすさきぼり 上総木彫 KAZUSA-KIBORI



上総木彫とは、それぞれの木の持つ表情を活かし、立体的な絵柄を浮かび上がらせていく技法で、食器、盆、素彫品等を製作しています。

倉持さんは、21歳から関東各地で修行を重ねた後、昭和55年に千葉県に戻りました。現在は、九十九里町にて長年培った経験を活かし、木彫作品の製作を続けています。

連絡先：0475 (76) 8774

木工品 Woodcraft

指定番号 162 (平成19年度指定)

もくちょうこく 木彫刻 MOKU-CHŌKOKU



神社仏閣を飾る彫刻の技法(堂宮彫刻)を使い、一つの木を彫って、欄間、神輿、山車、向拝などの彫刻を生み出します。

藪崎さんは、江戸時代から神輿づくりが盛んな市川市行徳地区の神輿店で15歳から彫刻の修業を始め、堂宮彫刻の技法を習得しました。

連絡先：047 (357) 5697

木工品 Woodcraft

指定番号 163 (平成19年度指定)

うじょうようじ 雨城楊枝 UJŌ-YŌJI



雨城楊枝は、江戸時代より上総地方で作られてきた黒文字(クスノキ科落葉低木)を使った楊枝に、明治の末に先代森安蔵氏が、樹皮に模様を彫るなどして考案した装飾性・芸術性の高い楊枝です。

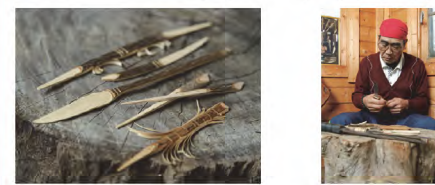
森さんは、父である先代光慶氏から技術を、後継者として銘「光慶」を受け継ぎ、伝統の楊枝づくりを続けています。

連絡先：090 (5407) 6999 製作体験あり

木工品 Woodcraft

指定番号 176 (平成24年度指定)

うめがせようじ 梅ヶ瀬楊枝 UMEGASE-YŌJI



梅ヶ瀬楊枝は、市原市にある梅ヶ瀬深谷の黒文字を使った楊枝に、樹皮に模様を彫るなど装飾性・芸術性の高い楊枝です。

高橋さんは、伝統技術を継承しながらも、新しい形の楊枝製作に取り組んでおり、後継者である弟子に伝授するとともに、梅ヶ瀬楊枝の良さや技法を広めていきたいと語っています。

連絡先：0436 (62) 1644

木工品 Woodcraft

指定番号 178 (平成25年度指定)

くろもじ かんぼくふさようじ ちば黒文字・肝木房楊枝 CHIBA-KUROMOJI・KANBOKU-FUSAYŌJI



楊枝(歯木・インド発祥)は538年仏教と共に伝来し、江戸時代に改良された爪楊枝、舌掃除、歯ブラシの機能を備えた房楊枝の出現で庶民に普及しました。

浮原さんは、研究を深めてきた結果、作品は多くの博物館や大学の教材、歌舞伎や時代劇映画、TVに活用されています。文化遺産と言える房楊枝の復元制作が可能なのは、日本で唯一人です。雅号「守破離」。

連絡先：043 (228) 2120

木工品 Woodcraft

指定番号 105 (平成5年度指定)

きじがんく 木地玩具 KIJI-GANGU



木地玩具とは、「ろくろ」で作る木製玩具のことを言い、独楽、輪抜きダルマ、けん玉、車ものなどがあります。

太田さんは、昭和54年より修業を重ね、江戸時代からの伝統技術を用い、ケンカ独楽、ダルマ回し等を製作。単純な動きの中に、人の気持ちをくすぐる洒落った気のある木地玩具を作っています。

連絡先：0470 (20) 4082

木工品 Woodcraft

指定番号 182 (平成29年度指定)

たてぐくみこ 建具組子 TATEGU-KUMIKO



組子とは、釘を使わずに木を1本1本組み付けしていく技術で、飛鳥時代から永い年月をかけて磨き抜かれた木工技術です。

県指定を受けた父の最首實さんや先代々の祖父から伝統的な技法を受け継ぐ3代目。組子細工を施した衝立は芸術性も高く、亜細亜現代美術展にて、2年連続入賞した実績もあります。

連絡先：0470 (62) 1582 製作体験あり

木工品 Woodcraft

指定番号 160 (平成18年度指定)

らくどうぞうがん もくぞうがん 楽堂象嵌(木象嵌) RAKUDŌ-ZŌGAN MOKU-ZŌGAN



木象嵌とは、切り抜かれた色合いの異なる木片を地板に空けた穴にはめ込む工程を繰り返すことで模様や絵画を作製する技法です。

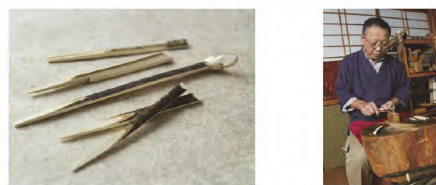
内山さんは、機械式糸鋸を用いた「糸鋸象嵌」のうち「一分象嵌」と「セン象嵌」の両方の技術の保持者です。最も難しい「垂直挽き」を考案し「楽堂象嵌」と名付けました。

連絡先：04 (7187) 6605

木工品 Woodcraft

指定番号 175 (平成24年度指定)

ちば楊枝 CHIBA-YŌJI



ちば楊枝は、雨城楊枝の流れをくみ、黒文字に装飾を施した楊枝です。

清水さんは、いすみ楊枝の高木守人氏に師事し、楊枝製作の伝統技術を習得しました。

作る楊枝は、「末広」、「鉄砲」、「キセル」、「梅」、「白魚」など30種類。伝統的な楊枝の型や技術を、次の世代に広く普及させたいと語っています。

連絡先：043 (261) 3844

木工品 Woodcraft

指定番号 154 (平成16年度指定)

ながいきようじ 長生楊枝 NAGAIKI-YŌJI



長生楊枝は、雨城楊枝の流れをくみ、黒文字に装飾を施した楊枝です。

村杉さんは、いすみ楊枝の高木守人氏に師事し、平成16年に、その流れをくむ製作者として「長生楊枝」の銘を許されました。材料の採取から製作に至るまで自らの手作業で行うことにより、江戸時代に始まる楊枝づくりの伝統を守り続けています。

連絡先：0475 (44) 0304

木工品 Woodcraft

指定番号 164 (平成19年度指定)

はたざわようじ 畑沢楊枝 HATAZAWA-YŌJI



畑沢楊枝は、雨城楊枝の流れをくみ、黒文字に装飾を施した楊枝です。

中山さんは、雨城楊枝の先代の森光慶氏に師事し、平成16年に、技能後継者として「畑沢楊枝」の銘を許されました。

材料採取から製作に至るまで、全ての工程を一人の職人が手作業で行い、削りや細工の熟練した技能が、黒文字の香りを一層引き立たせています。

連絡先：0438 (37) 4855 製作体験あり

木工品 Woodcraft

指定番号 192 (令和元年度指定)

かすさとうみ 上総唐箕 KAZUSA-TŌMI



上総唐箕は、風力を利用して穀物を精選する農具であり、上総地方の旧君津郡亀山村・同松丘村を中心に江戸時代末期から製造されてきました。

本吉さんは、木工建具の製造に60年以上にわたり従事しており、培ってきた知識と経験を生かし、伝統的な「矢筈はぎ」という技法を用いながら唐箕づくりを続けています。

連絡先：0439 (29) 2225

木工品 Woodcraft

指定番号 197 (令和4年度指定)

にほんさんかやいごばん 日本産榎囲碁盤・将棋盤 NIHONSAN-KAYA-IGOBAN



日本産榎囲碁盤・将棋盤は、その名のとおりに、今では大変貴重となった国産の榎に拘って製作された囲碁盤・将棋盤です。

三浦さんは、日本産の榎に拘り、自ら丸太を仕入れて製材し、盤から脚までを一貫して製作する国内でも数少ない盤師であり、中でも更に数少ない、駒の成形や駒台、駒箱の製作までできる大変貴重な盤師です。

連絡先：0475 (89) 0008

木工品 Woodcraft

指定番号 198 (令和4年度指定)

さしものかぐ 指物家具 SASHIMONO-KAGU



指物家具の由来はいくつかありますが、木材に「ホ」:=と言われる凹凸をつくり、木と木を「さし合わせる」ことから指物というのが有力です。その指物技法を用いて製作した家具を指物家具と言います。

大谷さんは、家具産地静岡にて家具指物師に師事し、独立後、長南町に移転し伝統工法を用いたオリジナル家具を製作しています。

連絡先：0475 (47) 3530

竹工品 Bamboocraft 指定番号 59 (昭和61年度指定)

いんばたけざいく
印旛竹細工 INBA-TAKE-ZAIKU
よしざわ こうじ
芳澤 幸二 (栄町)



印旛竹細工は、茶籠や花籠を作る竹細工です。製作に用いられる煤竹は古民家の屋根の骨組みに使用された深い真竹で、数百年かけて燻されて深い小豆色を呈します。芳澤さんは、真竹を用いて茶道や花道で使用される作品を多く製作しています。仕上げの漆は何度も塗り重ねることで作品の耐久性を向上させます。

連絡先：0476 (95) 2531

竹工品 Bamboocraft 指定番号 196 (令和3年度指定)

なんそうたけざいく
南総竹細工 NANSŌ-TAKE-ZAIKU
やまもと とみひこ
山本 富彦 (市原市)




南総竹細工は、昔からの技術・技法を生かし、美術的な要素を加えた花籠等を製作するものです。山本さんは、この技術を昭和63年に県指定を受けた八木澤祐三氏から継承し、培った経験を生かして日常で使用できる竹籠バッグ等の製作など、工夫を加えた竹細工技術の活用に取り組んでいます。

連絡先：090 (3210) 4574

金工品 Metalwork 指定番号 159 (平成18年度指定)

かんとうぎゆうとう
関東牛刀 KANTŌ-GYŪTŌ
やまかわ よしと
八間川 義人 (柏市)



関東牛刀は、東京周辺で生産されていた牛刀(洋包丁)であり、原材料の鋼材から成形、焼入焼戻、研ぎ、柄付けなど、全ての工程を伝統的な総手づくりで仕上げられています。八間川さんは、代々刃物鍛冶の故関守永氏が継承していた伝統技術を受け継いでいます。銘は「光月」。

連絡先：04 (7193) 0271 製作体験あり

金工品 Metalwork 指定番号 134 (平成9年度指定)

ぼうしゅうのこぎり
房州鋸 BŌSHŪ-NOKOGIRI
かすや ゆうじ
粕谷 雄治 (鴨川市)



船鋸は、堅い木材を使用する和船を製造する際に用いた鋸で、切れ味と耐久性が求められたため、数十工程を経て製作されていました。現在は、その製造技術を活かし、剪定用鋸をはじめ、生け花や工芸向きなどの用途に応じて製作されています。粕谷さんは、「中屋雄造正直」の銘を先代から受け継ぎ、その伝統を守っています。

連絡先：04 (7096) 0349

金工品 Metalwork 指定番号 158 (平成17年度指定)

にほんとう
日本刀 (美術刀剣) NIHONTŌ
まつだ しゅうじ
松田 周二 (千葉市)




松田さんの作る刀剣は古刀の味わいがあり、物静かで繊細な刃先が特徴です。昭和49年に刀匠故高橋次平氏に師事し、昭和55年に文化庁より作刀承認許可を受け、以降鎌倉時代の刀の再現にこだわり製作しています。文化庁長官賞や高松宮記念賞などを受賞し、平成21年には刀鍛冶の最高位である無鑑査に認定、平成27年には千葉県指定無形文化財保持者となっています。刀匠名「次泰」。

連絡先：043 (228) 3044

金工品 Metalwork 指定番号 110 (平成5年度指定)

にほんとう
日本刀 NIHONTŌ
えざわ としはる
江澤 利春 (南房総市)



古来から美術品としても価値のある日本刀。江澤さんは、昭和49年に人間国宝である隅谷正峯氏に師事し、昭和54年に文化庁より刀剣製作の承認を受け、昭和55年に独立し、鍛錬所を開設しました。新作名刀展において特別賞(日本美術刀剣協会会長賞)など数々の受賞があります。刀銘は「利宗」。

連絡先：0470 (36) 3838

金工品 Metalwork 指定番号 150 (平成14年度指定)

さくらたんぞうはもの
佐倉鍛造刃物 SAKURA-TANZŌ-HAMONO
いなさか とくたろう
稲坂 徳太郎 (酒々井町)



佐倉鍛造刃物は、農具を中心に作られてきましたが、現在では、包丁や小刀等の日常生活用品を製作しており、使い込むほど手に馴染み、愛着を持って長く使える鍛造刃物です。稲坂さんは、13歳から父の手ほどきを受け、総火造りの手法を受け継ぎ、半世紀以上にわたり刃物造りに取り組んでいます。

連絡先：043 (496) 1601

金工品 Metalwork 指定番号 103 (平成4年度指定)

しもうさばさみ
下総鋏 SHIMŌSA-BASAMI
きたじま かずお
北島 和男 (松戸市)



明治初期に厚手の服地と一緒に輸入された裁断用の鋏は、大きく重くて日本人には扱いにくかったため、扱いやすく改良したものが下総鋏です。北島さんは、日本のラシャ切鋏の創製者である吉田弥十郎氏の流れをくみ、製法は全て手作りの「総火造り」にこだわりながら、2代目平三郎として鋏づくり一筋に打ち込んでいます。

連絡先：047 (362) 7858

金工品 Metalwork 指定番号 130 (平成9年度指定)

しもうさばさみ
下総鋏 SHIMŌSA-BASAMI
うかじ くにお
宇梶 國雄 (松戸市)



明治初期に厚手の服地と一緒に輸入された裁断用の鋏は、大きく重くて日本人には扱いにくかったため、扱いやすく改良したものが下総鋏です。宇梶さんは、日本のラシャ切鋏の創製者の吉田弥十郎氏の流れをくみ、親子二代にわたりラシャ切鋏を専門に製作しています。

連絡先：047 (341) 4057

人形 Dolls 指定番号 141 (平成11年度指定)

いしろうぎにんぎょう
衣裳着人形 ISHŌGI-NINGYŌ
あいざわ ひであき
相澤 秀昭 (印西市)



節句人形は、子供の成長を願い、季節行事として親しまれ続いてきた桃の節句、端午の節句に飾る「雛人形」、「五月人形」です。相澤さんは、雛人形の胴を作る胴師です。織元に赴き厳選した京都西陣正絹布地で作成した美しい衣裳が特色であり、手足の振付で優雅な表情を表現しています。

連絡先：0476 (42) 5511

人形 Dolls 指定番号 104 (平成4年度指定)

せっくにんぎょう
節句人形 SEKKU-NINGYŌ
おかむら ひろかず
岡村 洋一 (千葉市)




節句人形は、子供の成長を願い、古くから日本の季節行事として親しまれ引き継がれてきた桃の節句、端午の節句のときに飾る「ひな人形」、「五月人形」です。岡村さんは、節句人形の頭を作る頭師です。頭づくりは全て手作業で行い、特に神経を使うのが、目の切り出しで、人形に生命を吹き込んでいきます。

連絡先：043 (232) 2290

人形 Dolls 指定番号 174 (平成23年度指定)

せっくにんぎょう
節句人形 SEKKU-NINGYŌ
まつざわ たけひと
松澤 武人 (鎌ヶ谷市)



節句人形は、子供の成長を願い、古くから日本の季節行事として親しまれてきた桃の節句、端午の節句のときに飾る「雛人形」、「五月人形」です。松澤さんは、節句人形づくりの四代目であり、父の一男さんから受け継ぎ、磨きをかけてきた技術が次代に引き継がれ、更に発展していくよう努めたいと語っています。

連絡先：047 (443) 4618 製作体験あり

金工品 Metalwork 指定番号 151 (平成15年度指定)

しもうさばさみ
下総鋏 SHIMŌSA-BASAMI
のざき よしゆき
野崎 吉之 (松戸市)



木鋏には、花鋏、植木鋏など、用途、植物の種類によって多種多様な形があります。野崎さんは、県指定を受けた伯父の喜一郎さんと父の吉之助さんからその技術を受け継ぎ、日々研鑽しています。鋏の刃と刃の噛み合わせは、物が楽に切れ、しかも軽量に作られています。銘は初代より「光吉之」。

連絡先：047 (362) 3457

金工品 Metalwork 指定番号 97 (平成3年度指定)

ぼうそううちはもの
房総打刃物 BŌSŌ-UCHIHAMONO
いしづか よういちろう
石塚 洋一郎 (成田市)



房総打刃物は、日本のフシャ切鋏の創製者である吉田弥十郎氏の流れをくむ、総火造りによる鋏などの刃物です。石塚さんは、吉田氏に師事した祖父と父正次郎さんの技術を受け継ぎ、昭和56年度に「現代の名工」に選ばれた偉大な父を超えることも後継者としての使命だと語り、製作活動に情熱を傾けています。

連絡先：0476 (26) 8061

金工品 Metalwork 指定番号 167 (平成20年度指定)

なりたうちはもの
成田打刃物 NARITA-UCHIHAMONO
いしづか しょうじろう
石塚 祥二郎 (成田市)



成田打刃物は、刀匠の流れをくみ、裁ち鋏の形状の利点を取り入れた、独特の風合いのある刃物類です。総火造りで製作される刃物は、強靱な粘りがあり、切れ味の良さが続くとともに、錆びにくいことが特長です。石塚さんは、伝統技法を守りながら、現代の生活にも受け入れやすい工芸品づくりを目指しています。

連絡先：0476 (26) 8061 製作体験あり

人形 Dolls 指定番号 180 (平成25年度指定)

せっくにんぎょう
節句人形 (雛人形) SEKKU-NINGYŌ
やまだ よしゆり
山田 吉徳 (流山市)



子供の成長を願い、古くから日本の節句行事を通じて親しまれてきた「雛人形」や「五月人形」。山田さんは、節句人形の着付け師として、また日本人形協会認定の節句人形工芸師として、雛人形の胴部や手の振り付けを行い、伝統にこだわりながら時代のニーズに合った雛人形制作に取り組んでいます。

連絡先：04 (7158) 4125

人形 Dolls 指定番号 191 (令和元年度指定)

いちまつにんぎょう
市松人形 ICHIMATSU-NINGYŌ
いわむら りょう
岩村 亮 (市川市)



市松人形は、江戸時代の歌舞伎役者、佐野川市松に似せて作られたことに由来するとされ、「いちまさん」の愛称でも親しまれてきました。岩村さんは、現代に残る数少ない市松人形師の号である松乾齋東光の四代目として伝統の技法を現代に残すべく、市松人形の製作と普及に取り組んでいます。

連絡先：080 (4115) 7674

郷土玩具 Folk Toys 指定番号 156 (平成16年度指定)

かくだこ そでだこ
角凧・袖凧 KAKUDAKO・SODEDAKO
かなや もりひと
金谷 司仁 (市原市)



角凧・袖凧は、上総地方で、男児が誕生するとその子の健康と出世を願い、端午の節句に凧を贈る風習があるなど、各種慶事に用いられてきました。金谷さんは、昭和25年から凧作りを始め、先々代が大正時代に描いた下絵を参考に製作しています。凧愛好者の集いに参加するなどして、凧の素晴らしさを伝えています。

連絡先：0436 (61) 0131